

★本紙名『8200』とは改正商法による「株主代表訴訟」に要する裁判費用に由来します★

Daily
Fax
News

日刊 8200

発行 月光社情報出版
編集 財部研一郎
東京都中央区日本橋箱崎33-1
☎ 03-3668-8200 (代表)

■1994-11-22■

【人物突撃インタビューシリーズ】…その7・2… 『敬天新聞社』白倉康夫社主の巻

「私は命を懸けて愚直に平成の世の捨石になりたい！」

『敬天新聞社』白倉康夫 社主、激白第2弾！！

壇上での『敬天新聞社』白倉康夫社主の「日本船舶振興会」ならびに「埼玉県モーターボート競走会」(戸田競艇場)、そして斎藤純忠戸田市長に対する糾弾演説は、延々と続いている。時に激しく、時に老人たちに話しかけるように優しく“ニッカポッカの白倉節”が夕闇迫る新橋駅頭に響き渡る。

「元々“笹川グループ”と斎藤市長は犬猿の仲だったことは公知の事実。それが、笹川良一會長が事実上の引退の後は、現在のリーダーである陽平とベッタリ！……いくら『君子は豹変する』とはいって、この激変ぶりには側近たちも口をアングリ！……これは何らかの取引があったと考えるのが順当。ましてや伊集院元審判長を巻き込んでの“八百長疑惑”！……賤しくも売上高2兆円、冀の役にも立たない各種団体あるいはタカリ専門の政治家にバラまくカネが700億円！……斎藤市長の豹変の理由も、ハッキリ言えば、この700億円の分配を巡っての所産であるのは明々白々。……口ではあれこれキレイ事を並べても6期目ともなると、キンタマに苔の生えた古狸？に大変身！……許すべからず！偽善！強欲！無節操！」……白倉氏の言葉は段々とエスカレートするが不思議なことにそれが全然、嫌らしく聞こえないのはそれだけ説得力があるせいか。（後日の小紙の取材でも、白倉氏の指摘はほぼ間違っていないことが確認されている）……時折り、拍手や激励の言葉まで飛びという聴衆と一体になった珍しい街宣活動である！……これでは（つい最近のことであるが）白倉氏の街宣活動に感激した（同氏とは面識も何もない）一市民が、斎藤市長の自宅へトラックで突入、また一方では、このところの戸田競艇場での不可解なレースについてファンの間で不穏な動きが出ている？というのも無理はない。……これまで“帝王”と言われた彦坂郁雄選手、“ジェットの男也”的異名をとった中村男也選手など不透明な理由で引退させられたスター選手は少なくないが、今回の戸田競艇での“八百長疑惑”を顧みれば“胴元”および“テラ銭取り”的方こそ永久追放の処分を受けるべきではなかったか？……つくづく考えさせられる問題である。

——ライトに照らされた白倉氏の顔面も幾分紅潮！……糾弾の激にも更に熱が籠ってくる！……『笹川基金』『笹川記念館』など“笹川”的名をこれ見よがしに付けるのは非国民のすること！……本妻！2号！3号！と新幹線ではあるまいに、数々の団体での公私混同もイイ加減にすべし！……“箕面の山猿”がバクチのテラ銭配りで掴んだ利権にしがみつくとは言語道断！……いやはや、強烈そのもの！ここまで権力をコテンパンに糾弾するとは！……聴衆も呆気にとられたような？顔付で聞き入っているが、小紙記者も別に白倉氏の肩を持つわけではないが妙に納得させられてしまった。

さて、一段落したところで壇上に上ったのは本日のゲストである小川薰氏！……さすがに百戦錬磨、メジャーで鍛えただけあって話はスムーズ！演題も「富士フィルム事件」「住友銀行事件」とあっては聴衆の眼も真剣さと好奇心で一杯、反応は上々の滑り出しだ。

……その間の時間を利用して、再度、白倉氏にインタビューを再開。……小紙記者「今年の株主総会では『ニッカ』『富士銀行』『アサヒビール』と問題企業ばかりに出席、発言したことにより、白倉氏に対する企業の評価は“新しいスタイルの総会屋”と位置づけているようですが……」と水を向いたところ、白倉氏いわく「総会屋は企業からカネを貰って生計を立てている人達のことを云うとすれば、現時点で私はどの企業とも付合いはないし、当然のことながら一銭も貰っていないのだから、私に対して“総会屋”という言葉はあてはまらないでしょう。先の『ニッカ』など3社の株主総会への出席は人を介して依頼されたもの。…仲介者は誰かって？…そんなことは自ずと推測がつくでしょう。」

(さらに続く)

◆年間購読料〈個人会員〉20万円〈法人会員〉30万円◆後記欄に〈⇨〉がある場合は会員専用電話にダイアルして下さい◆当社は収益金の一部を『厚生省エイズ予防基金』に寄付しています◆

☆☆☆ 会員専用 禁無断複写転載 ☆☆☆



新橋駅頭の『敬天新聞社』街宣車